



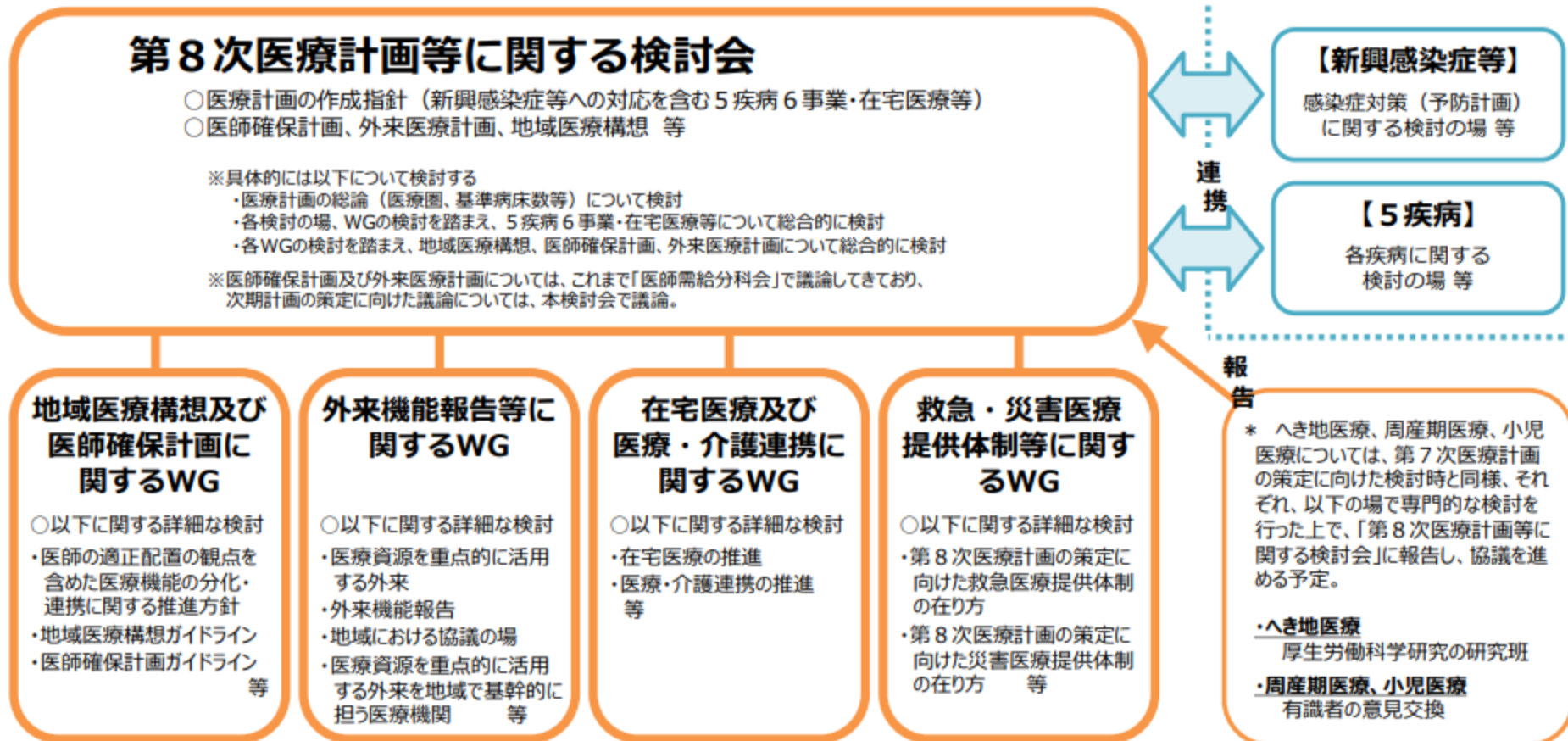
公立みつぎ総合病院

広島県病院薬剤師出向モデル事業の効果について

広島大学病院 薬剤部
石井 聡一郎

第8次医療計画の策定に向けた検討体制

- 第8次医療計画の策定に向け、「第8次医療計画等に関する検討会」を立ち上げて検討。
- 現行の医療計画における課題等を踏まえ、特に集中的な検討が必要な項目については、本検討会の下に、以下の4つのワーキンググループを立ち上げて議論。
- 新興感染症等への対応に関し、感染症対策（予防計画）に関する検討の場と密に連携する観点から、双方の検討会・検討の場の構成員が合同で議論を行う機会を設定。



薬剤師確保計画ガイドライン(概要)

1. 薬剤師確保計画策定の必要性和方向性

必要性

- 少子高齢化のさらなる進行や、今後人口減少地域が増大することが予測される中で、人口構造の変化や地域の実情に応じた医薬品提供体制を確保することが求められている。一方で、令和3年6月に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会とりまとめ」では、薬剤師の従事先には地域偏在や業態偏在があり、特に病院薬剤師の確保が喫緊の課題であることが指摘されており、偏在の解消に向けた薬剤師確保の取組が重要である。
- 「第8次医療計画等に関する検討会」においても薬剤師確保の取組の必要性が指摘され、医療計画作成指針において、医療従事者の確保等の記載事項として、地域の実情に応じた薬剤師確保策の実施等が新たに規定される予定。都道府県においては、今後、当該指針に基づき、薬剤師確保に係る計画を策定することが求められる。

方向性

- 薬剤師の偏在は、都道府県内に加え都道府県間でも生じていることから、全国的な偏在の状況を統一的、客観的に捉えた上で、地域の実情に応じた確保策を講じることが効率的、効果的と考えられる。
- これまで、地域ごとの薬剤師数の比較には人口10万人対薬剤師数が一般的に用いられてきたが、これは地域住民の薬剤師業務に係る医療需要に対する薬剤師数の多寡を統一的・客観的に把握するための指標として必ずしも十分とは言えないことから、今後は新たに算定した薬剤師偏在指標を踏まえ薬剤師少数区域・薬剤師多数区域等を設定することにより、少数区域等において集中的な対応策の検討が可能となる。
- 3年ごとに薬剤師確保計画の実施・達成を積み重ね、その結果、2036年までに薬剤師偏在是正を達成することを薬剤師確保計画の長期的な目標とし、都道府県は、本ガイドラインで示す薬剤師確保計画の考え方や構造を参考に、地域の実情に応じた実効性のある計画を策定する。

病院薬剤師確保の取組みの手引き (ver 1.3)

2023 年 6 月

日本病院薬剤師会

病院薬剤師確保策に関する検討特別委員会

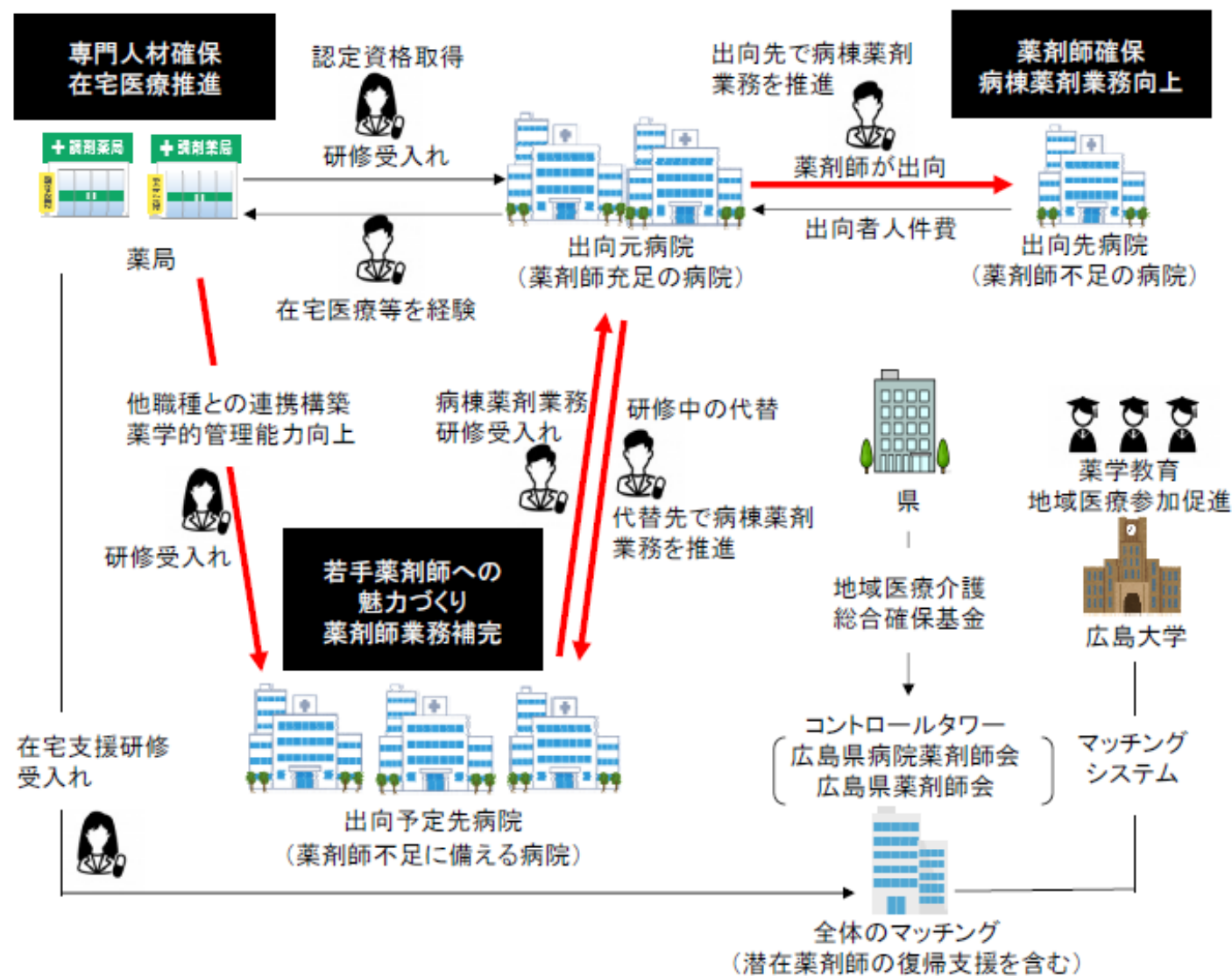
<はじめに>

薬剤師の偏在は深刻な状況となっている。地域によっては薬剤師の確保が極めて困難な状況が常態化しており、新しい取り組みはもとより基本的な業務の遂行が困難な施設が顕在化している。そこで、本会では薬剤師の地域偏在の解消に向けて、理事会、総会、地域連絡協議会等で議論を重ねるとともに、厚生労働省、病院団体等とへの働きかけを進めてきた。

医療法改正に伴う医療従事者の働き方改革が叫ばれる中、薬剤師には医薬品全般に関わる業務効率の向上やタスク・シフト/シェアが求められている。対物中心の薬剤師業務から対人中心の薬剤師業務への転換やデータヘルス改革による電子カルテ・電子処方箋をはじめとする ICT の利活用を推進するとともに、施設の地域性・規模・機能に関わらず、薬剤師としての使命を果たすため、正確な調剤はもとより、病棟薬剤業務のより一層の充実を図り、医薬品の適正使用の推進、積極的な処方提案等様々な業務を進める等、今後さらに拡大する可能性のある業務にも取り組んで行くことが求められており、そのために必要な薬剤師を確保が喫緊の課題である。しかしながら、薬剤師の偏在は、地域偏在、機能偏在、規模偏在など複合的な要因が関係し、その実情が都道府県によって大きく異なるため地域の実状に応じた取り組みを進めることが必要である。そこで、本会では 2022 年 7 月に武田新会長のもと病院薬剤師確保策に関する検討特別委員会が組織された。

本県の薬剤師確保体制

病院薬剤師出向支援事業
病院薬剤師交流研修支援事業
薬局薬剤師病院臨床薬剤業務研修支援事業



薬剤師偏在の解消及び地域の医薬品提供体制の確立



左から、公立みづき総合病院を事前訪問する広島大学病院の松尾院長、出向薬剤師の石井薬剤師、公立みづき総合病院の村上薬剤師、広島県の岡田薬剤師 (同薬剤師提供)

公立みづき総合病院は、薬剤師確保に関する厚生労働省の委託事業「基幹病院の薬剤師を地方の病院に派遣するモデル事業」を開始する。広島大学病院の出向薬剤師が、今年10月から約3カ月間、尾道市の公立みづき総合病院に出向し、病棟業務の体制整備を支援する。働き手と患者の両方にとって、病棟業務の体制整備を支援する。働き手と患者の両方にとって、病棟業務の体制整備を支援する。

広島県 確保対策でモデル事業開始

基幹病院から薬剤師出向

広島県は、薬剤師確保に関する厚生労働省の委託事業「基幹病院の薬剤師を地方の病院に派遣するモデル事業」を開始する。広島大学病院の出向薬剤師が、今年10月から約3カ月間、尾道市の公立みづき総合病院に出向し、病棟業務の体制整備を支援する。働き手と患者の両方にとって、病棟業務の体制整備を支援する。

財政審 集中率高い薬局に照準
基本料1の範囲見直しを
財務省は、医療費適正化効果を得るため、薬局の集中率を高める。基本料1の範囲見直しを、財務省は、医療費適正化効果を得るため、薬局の集中率を高める。



薬事日報社
東京本社 〒101-8565
東京千代田区神田神保町1-2-1
大阪支社 〒541-0045
大阪中央区道頓堀2-1-10
電話 03-5561-2141
06-6233-3681
03-5561-2141
06-6233-3681
03-5561-2141
06-6233-3681
03-5561-2141
06-6233-3681

きょうの紙面
市販薬活用へ対応
武見享寿相……②
23年 秋の叙勲
政府……②
公民館でわが国診療
ウイ・カウス……⑧
コロナが業績牽引
第一三共……⑦
本号8ページ

無季言

◆高齢者による「アレーキ」と「アクセル」の踏み間違いによる交通事故が連日続いている。高齢者の運転免許を返上する動きが広がっている。高齢者の運転免許を返上する動きが広がっている。

薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。薬剤師確保の対策を始める。

- 実際の業務を見て必要な課題と支援を考える。
- 若手薬剤師を教育して意欲を高めたり、業務の改善点を伝えたりして、効率的で質の高い病棟業務を実施できる体制整備を支援する
- 病棟業務を確立し、病院の魅力向上につなげる

公立みつぎ総合病院

病床数	240床 一般病床 145床(一般病棟84床、地域包括ケア病棟55床、緩和ケア病棟6床) 療養病床 95床(回復期リハビリ病棟72床、医療療養病棟23床)
診療科目	21診療科 内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、精神科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、リウマチ科、リハビリテーション科、緩和ケア科、透析科、歯科、(禁煙外来、栄養サポート・ステーション)
処方箋枚数	院内処方せん 3,305 枚/月 院外処方せん 3,639 枚/月(院外処方せん発行率89.5%) 注射処方せん 6,649 件/月
薬剤師数	8名(若手:1年目、2年目、4年目、6年目 各1名)
認定資格	日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師...4名 日本薬剤師研修センター認定薬剤師...1名 日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師...2名 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師...1名 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム(NST)専門療法士(薬剤師)...1名 日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療法指導士(薬剤師)...1名 Infection Control Staff...1名 日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定薬剤師...1名 地域包括医療・ケア認定専門職...1名 公認スポーツファーマシスト...1名 介護支援専門員(ケアマネージャー)...2名

出向先における目標

- ▶ 病棟薬剤業務の確立
- ▶ 調剤業務の効率化（病棟業務時間の確保のため）
- ▶ 若手の教育
- ▶ 地域連携の推進
- ▶ 広報
- ▶ 医療安全への貢献
- ▶ 研究立案や学会発表等の経験サポート

課題の抽出

病棟

調剤

教育

地域
連携

広報

上記項目分けして課題を抽出し、
それぞれに対して出向先の先生方と相談しながら対応を検討

課題の抽出と対応(一部抜粋)

項目	課題	対応
病棟	病棟薬剤業務の確立	- 算定可能病棟の全患者薬剤師担当体制の構築 - 病棟薬剤業務実施加算算定想定し、業務時間、必要人数の算出
病棟	ファーマロード(病棟業務支援システム)の活用	記録や業務日誌テンプレート作成・改訂・教育・運用
病棟	他職種との連携	- 心不全療養指導に関する看護部講義 - 心不全治療薬とリハ薬剤に関するリハビリテーション科講義
病棟		プレアボイドの収集フォーマット作成、運用
調剤	調剤業務の効率化	調剤棚の整理
調剤	インシデント対策	分包紙への印字内容の検討

課題の抽出と対応(一部抜粋)

項目	課題	対応
教育	次世代薬剤師の育成	• 若手の病棟業務、記録等の指導
教育	研究立案・学会発表の経験	• 抄録作成指導(来年度学会発表予定) • 院内学会発表サポート
教育	継続教育	• 学習アプリ「Medical VISTA」を用いた継続教育試行予定
地域連携	薬薬連携の充実	• 訪問薬剤管理指導必要度評価シートの作成・運用 • 尾道薬剤師会・公立みつぎ総合病院合同研修会の開催
広報	病院の認知度(薬学生)	• 薬剤部紹介パンフレット作成(福山大学学生に配布済) • 福山大学4、5年生への就職活動・地域医療に関するアンケート

退院カンファレンス



訪問薬剤管理指導



訪問薬剤管理指導

在宅(サ高住)訪問後に訪問看護師へ情報共有↓



ケアマネに情報共有↓



全体を通して気を付けたこと

- 元々の**薬剤部の空気感**を大切にする(非常に雰囲気が良い、残業が少ないなど)
- まずは業務を経験・把握し、**信頼関係を構築**する
- 抽出した課題に対して行いたいことはたくさんあるが、一度にたくさんのことを行わない
- 出向先に自分が行いたいことを理解してくれる**協力者**がいることが望ましい
- **若手薬剤師**と積極的に関わる

業務改善のみにこだわるのではなく、
自分がどういう人間なのかを知ってもらうことも重要

出向元病院のメリット

1. 出向者の病棟薬剤業務推進の環境づくりを通じた組織マネジメント能力の向上や成長の機会
2. 出向先の業務改革を通じて出向先病院の職員から感謝されることによる出向者のモチベーション向上
3. 出向者が普段接する機会の少ない地域医療に従事している人々との人脈形成の機会
4. 働き方の見直しにつながり、出向者が将来のキャリアプランを考えるきっかけ
5. 急性期から回復期・慢性期までを俯瞰的に見ることのできる薬剤師の育成により、出向元病院において、施設や在宅での薬物療法継続を意識した業務の充実

課題

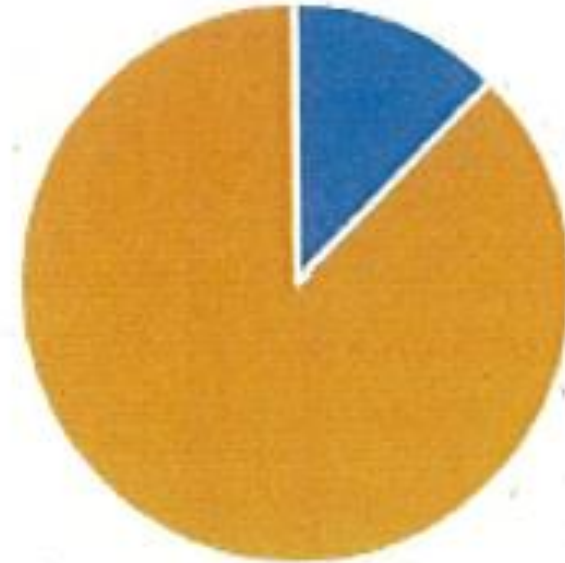
- 業務改善にあたって、出向先職員の理解や合意を得ながら慎重に進める必要があるため、出向期間はより長期にしたほうが無理なくかかわることができる。
- また、出向期間を長期にすることで部内にとどまらず院内他職種、地域との連携へ展開できる可能性がある。
- さらに、出向事業が人員不足解消につながるには、長期的な過程が必要であり、人員不足解消への過程を示していく必要がある。

職員アンケート

今回の出向事業前後のみつぎ病院薬剤部の業務内容の変化に関して最も近いものを選択してください。

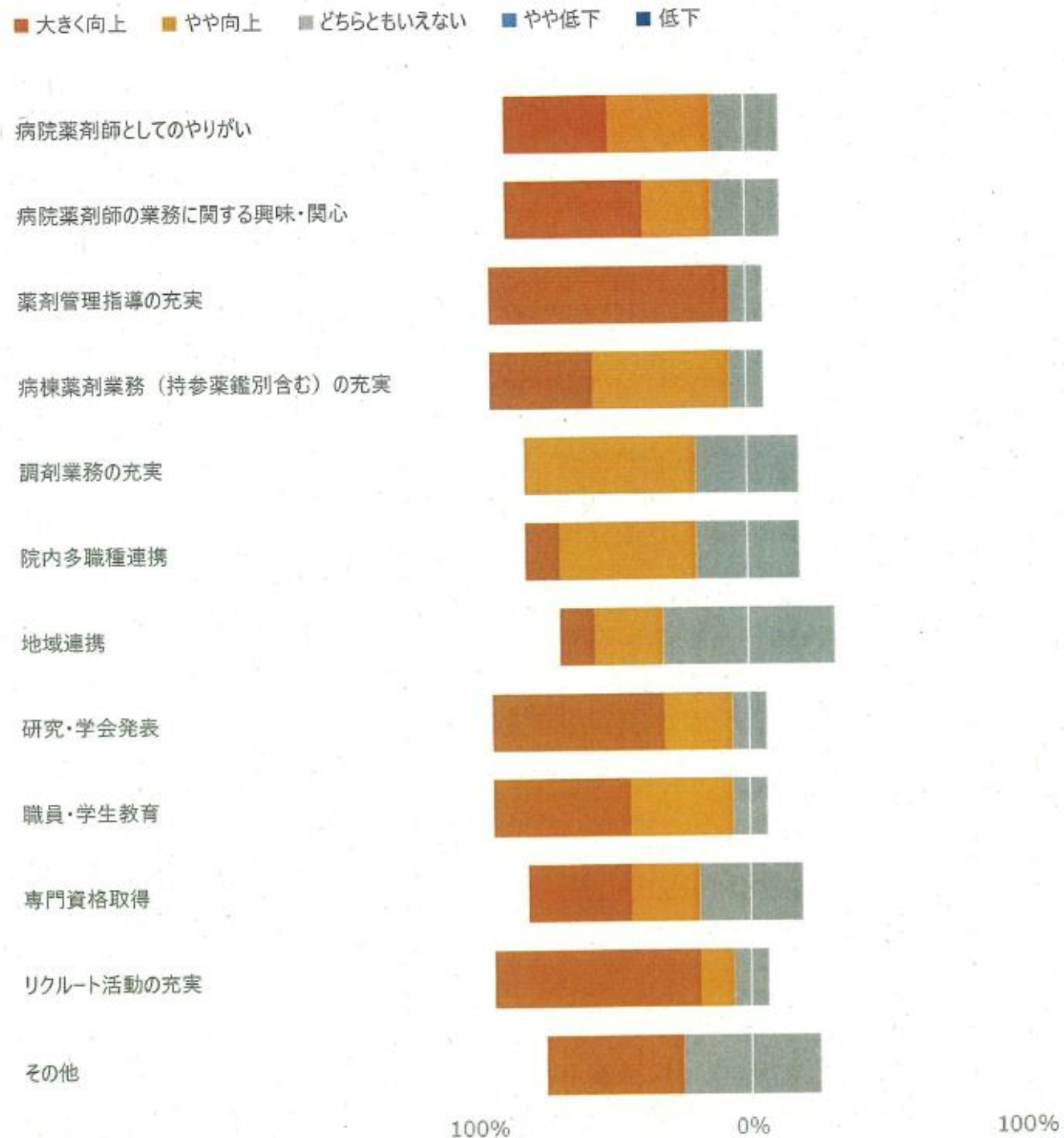
- 大きく改善
- やや改善
- 不変
- やや悪化
- 大きく悪化

1
7
0
0
0



職員アンケート

今回の出向事業前後で以下の意識の変化に関して最も近いものを選択してください。



ご清聴ありがとうございました。

